

聴かせて!

匠の技

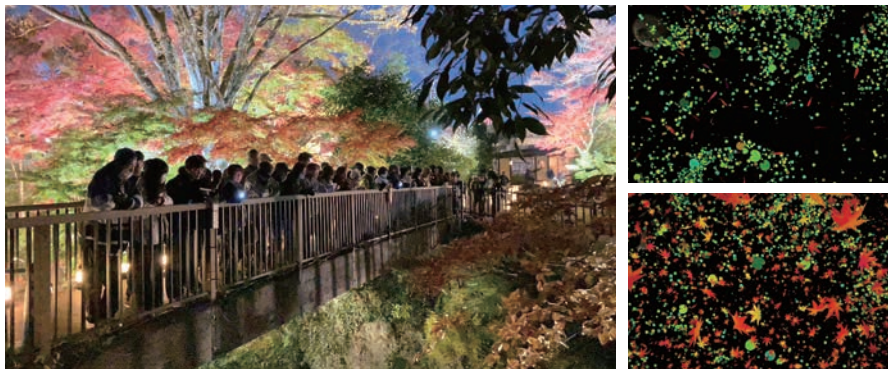
昨年の11月下旬、紅葉が見頃を迎えた雀宮公園ライトアップイベントの新たな取り組みとして、プロジェクションマッピングが行われ、多くの方から大変にご好評をいただきました。今回、そのプロジェクションマッピングに携わり、幅広い技術を活用し、ものづくりやサービスを提供するSandRoomの西沢直樹さんにお話を伺いました。

PROFILE 西沢 直樹さん Nishizawa Naoki

SandRoom(旧:ミツバチ鉄工所)の代表。現在は、町内在住。プログラミング、金属加工、溶接、木工など幅広く行う。



SandRoomの代表である西沢さんは長野県長野市出身で、以前はプログラミングなどのIT系の仕事をしていたのですが、寄居町の自然が自分の故郷の風景と重なるものがあり、とても魅力的に感じたことがきっかけで、3年ほど前に寄居町に移住しました。現在は、映像体験などのプログラミングのほか、金属加工、溶接、木工など、ものづくりに関する取り組みの傍ら、大学の非常勤講師を務め、知識や技術だけでなく、創ることへの熱意や想いの大切さを教えています。



昨年の11月下旬、モミジやイチョウなどが紅葉し、見頃を迎えた時期に合わせて行われた雀宮公園のライトアップ。西沢さんは期間中に「プロジェクションマッピング」を手掛け、大勢の観客を魅了しました。

「雀宮公園のプロジェクションマッピングでは、最初、園内の大きな岩の壁面に投影しようと思いましたが、地面を照らす方がはっきりと反射して、色が鮮明に映し出せたので、もみじ橋の上から投影することに決めました」と語る西沢さん。屋外での投影は今回が初めての試みで、上手く映るポイントを探すために何度もテストを繰り返し、位置を決めました。地面に写し出された映像は、風に乗って舞い散る桜の花びらや鮮やかな紅葉など四季を感じる水面。その中を優雅に泳ぐ金魚、時折水面に映し出される葛飾北斎やフェルメールなどの名画は、まるで水面の美術館のようでした。「プロジェクション(投影・映写)は、自由度がとても高いものなのですが、映像を全体的に明るくしすぎると見せたいものが見えにくくなったり、スピードを早く動かしすぎるとストーリーがお客様に伝わらなくなったりします。そのため、何度も調整を繰り返さないと良い映像を作ることが難しいです」とプロジェクションの制作について説明してくれました。また、西沢さんのプロジェクションは映像とあわせて、音楽が見事に調和し、非日常的な空間を演出しました。音楽についても「見る人により臨場感を感じてもらえるよう、プロジェクションに合う音楽を生成AIで作り込み

ました」とこだわりが詰まっています。繊細に躍動する大迫力の映像に惹きつけられた大勢の観客は、鮮明に映し出される映像に「おおーっ」と歓声を上げるなど、大いに盛り上がりました。

関係者と協議を重ね、完成まで1か月以上かけて納得する作品を作り上げた西沢さんは「保育園での思い出づくりに、園児たちにプロジェクションマッピングを見せないか」と、知人からもらったその一言がプロジェクションマッピングをはじめのきっかけとなったとのこと。「コロナ禍で、園児たちが気軽に遊びに行けない時、何とか思い出づくりに貢献したいと思いました」と当時を思い出します。プロジェクションマッピングといえば、単に映像を対象物に投影するイメージがありますが、「ただ映像を見るだけではなく、一緒に遊んで体験してもらいたい」との想いから、固定的な映像ではなく、園児たちの動きに反応して映像が変わるものを製作しようと考えました。これまでの経験を基に、試行錯誤を重ねた結果、大きさの違うカラーのボールが跳ね上がる“バウンシングボール”や上部からボールがランダムに落ちてくる“ボールプール”、園児たちが描いた絵が生き生きと泳ぎだす“スイミング”などを考案しました。また、音の演出では、ピアノの演奏や劇のナレーションを織り交ぜるなど、園児たちが聞いて親しみのある曲を取り入れました。その結果、園児たちの反応は、大満足。「みんなの笑顔を見ることができて、とてもうれしかったです」と、満面の笑みで話してくれました。

現在も、「映像体験」の分野でクリエイティブに活動する西沢さんに、今後やりたいことを伺うと「機材が整っているので、いろんな場所でプロジェクションを投影することが可能です。普段見ることができない人にもプロジェクションによる映像を体験してもらいたいです。また、仕事を通して、クリエイティブな人を増やしていきたいです。SandRoomでは、ものづくりや映像に関連した技術や知識を教えるワークショップの開催も行っていきたいです」と、意気込みを語ってくれました。プロジェクションは、アイデア次第で可能性は無限大。見る人々を魅了し、多くの感動と驚きを与えてくれる夢のある表現です。これからも、素敵な空間を演出する西沢さんの活動を楽しみにしています。



西沢さんの作品「SandRoom」

編集後記

まちな情報誌『あっLOOK』第7号を手にとっていただきありがとうございます。こちらの情報誌の作成を通して、寄居町には、美しい観光資源や熱い思いを胸に活動している方たちなど、たくさんの魅力を内包していることを再認識しました。特に今回の取材で、寄居北條まつりやプロジェクションマッピングなど、さまざまな方法で精力的に活動する方とお話して、仕事や活動に対する情熱を感じるなど、私自身も学ぶものが多い取材となりました。発行にあたり、取材にご協力いただいた皆さまをはじめ、たくさんの方にご協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。引き続き、町の魅力発信に尽力してまいりますので、今後ともよろしくお願いします。

